

フランス語入門：Initial1(1) デイ・コミュニケーション研究院

特任准教授 ジェゴンデ ニコラ

■シラバス

授業の目標 Course Objectives

外国語科目としてフランス語を選択している学生でも選択していない学生でも履修できます。基本的にはフランス語を初めて学ぶ学生を対象としますが、既習者のうちでも、これまでフランス人の先生と学ぶ機会のなかった人（具体的には1年次1学期の外国語科目フランス語Ⅰまたはフランス語演習入門：初めてのフランス語1（第3外国語）を履修した人）も対象にします。フランス語を母語とする教師による演習ですので、ネイティブのフランス語に直に触れて、正しい発音を学び、耳と口の訓練を重点的に行いつつ、聴く・話す・読む・書くという四技能の基礎を身につけることを目指します。

到達目標 Course Goals

正しい発音を身につけ、聞き取り能力、生きた会話力を習得して、きわめて日常的な状況でごく初歩的なコミュニケーションができるようになる能力を養うことを目標とします。

また、異文化能力、フランス語圏についての知識を獲得します。

フランス政府のレベルテスト、DELF/DALFのA1を目指します。

授業計画 Course Schedule

教科書に沿って、挨拶、自己紹介、好きなものを言う、評価する、質問する、情報を求める、値段を尋ねる、レストランで注文する、といった状況で必要な表現を学びます。文法事項としては、動詞のêtreとavoir、第1群規則動詞、冠詞、疑問文、否定文などを学びます。ペア練習、グループ練習などのさまざまな口頭練習、また読んだり書いたりする練習を行います。15回の授業で教科書の1、2単元（0課から8課）をやる予定です。

成績評価の基準と方法 Grading System

演習形式の授業であるため、授業への積極的参加を重視し、授業参加度（出席率・講義への取り組み・小テスト・課題提出・発表等を含む平常点）50%、達成度を測る各種試験（筆記・口頭）またはレポート50%を目安に評価します。

具体的には、授業の中であらためて指示します。

評価は絶対評価とし、原則として総合点が90点以上のものを秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可としますが、この基準については、その都度必要な修正を加え、最終的な評価において、成績に極端な偏りが生じないように十分配慮します。

■授業の取組・工夫等について

授業の目的と内容

この授業はまったくの初習者を対象にしています。学び始めたばかりの履修者に、新しく学ぶ外国語の内容を15回の授業で概観させることが目的です。この時間的な制限のために教育内容を縮小せざるを得ないのは確かですが、制限によって野心的な授業ができなくなるわけではありません。私は履修者に言語的能力や文化的知識を伝えるだけでなく、言語への関心や、フランス語あるいは他の言語の学習を続けたいという欲求を与えられるよう願っています。

そのために、私は言語に対する「行動的」なアプローチを採用しています。すなわち、文法を身につけるためだけにフランス語を学ぶのではなく、授業の中や外で自分を表現し、他者を理解する手段としてフランス語を学ぶことです。具体的にいえば、履修者は学期末には、たがいに挨拶を交わし、詳しい自己紹介を行い、友人や家族のような近親者を紹介することができるようになることが求められます。また私は言語のもつ文化的な側面を強調することによって、履修者が比較の観点から分析能力を発揮するよう促しています。

授業運営

私は各回の授業について、そこで学ぶコミュニケーションの具体的な目的を定めています。それぞれの授業が終わったら、学生はフランス語で何か新しいことを「する」ことが求められるのです。とはいっても、それぞれの授業は連続しています。授業は毎回、前回

学んだ内容の確認から始まり、授業の終わりには復習の指示を与えます。このようならせん状の進行は、学生の規則的な学習を必要とします。そのため私は最初の授業の際に、履修に際して絶対に守らなければならない三つの「鉄則」を定めています。すなわち、遅刻しないこと、前回までの授業で学んだ内容を身につけること、授業時間中は集中して授業に臨むこと、です。

さらに、履修者は受動的に授業を受けるだけではありません。言語的・文化的に必要な手段を学んだら、次はそれらを活用することが求められます。そのために準備の時間が15分間与えられます。この時間は、教師も手助けをしますが、学生自身が二人ないしグループで作業します。授業の最後に学生は、この作業の結果を他の履修者の前で発表します。

たしかに、間違いやそれに伴う恥ずかしさをしばしば恐れる日本の若い学生にとっては、このような方法は負担となるかもしれません。私は、あわてずに待ち、好意を示し、ユーモアを大事にすることで、彼らの不安を軽減するよう努めています。笑いも微笑みもない授業は、良い授業とは言えないでしょう...

最後に、私は日本語を使うことを自分に禁じていません。履修者自身の言語を使うことによってーそれが正当に使われるならー多くの文化的・言語的な事実が明らかになり、教員の求めていることが明確になります。それだけでなく、授業の規律を維持しつつ教員と学生の距離を縮めることにもなるのです。

教師へのアドバイス

同僚の教師にアドバイスをすることは私にとっては難しく思われます。というのも、根本的にいって、良い教員とは何でしょうか？ 私は、良い授業の秘訣は、野心的な姿勢と現実的な認識の、厳しさと親切さの、ユーモアとまじめさの、教員による指導と自律的な学習のバランスにあると考えています。しかし、魔法のレシピは存在しません。集団はそれぞれ異なっており、教師には柔軟性が求められます。私が助言をするとすればーおもに、日本人ではない私の同僚に向けての助言ですが、それだけではなく私自身にも向けての助言でもありますーそれは、日本の学生の特性を考慮にいれ、日本の教育文化をよりよく理解することによって、行き違いを減らし、学生にとってと同様に、教師にとっても意欲を起こさせる授業を実施すること、となるでしょう。

■ 学生の自由意見（良かったと思う点）

- ・ 先生が面白く授業をしてくれるので、毎回なごやかで、積極的に参加できた。どの先生もニコラくらいに、茶目っ気があってほしい。
- ・ 先生が、とてもおもしろくて、授業が楽しかったです。
- ・ 発音が重要なフランス語で会話中心の授業を行って良かったと思う。
- ・ 先生。
- ・ 楽しかった。
- ・ クラスのみんなでコミュニケーションをとってたのしくてよかった。
- ・ 生のフランス語を聞くことができた。会話の力が身についた。
- ・ 発表することで耳でフランス語を学ぶことができた点。
- ・ 楽しいし、理解しやすかったです。後期にも取りたい授業です。
- ・ 普通の話しをきくだけの授業とはちがって、皆集中してたし、授業の中でフランス語を学べて、成果を実感できる所。
- ・ 授業の中で学べて、成長を実感できるところ。
- ・ たくさん話す機会があって良かったです。
- ・ 予習復習しないといけないので、すごく身につきました。
- ・ フランス語は難しいという概念を持って参加したが、分かりやすい教え方で楽しく学べた。
- ・ 使っている参考書には載っていない表現がたくさんでてきて面白かった。教員が身近にいる環境もよかった。
- ・ 先生と生徒の交流が多くて、とても楽しい授業でした。
- ・ しゃべんなきゃいけないからちゃんと覚えようとした。
- ・ ニコラ先生の授業は今まで受けた全学科目の中で一番おもしろかった！